

S I D R

滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

《週報》

第4巻第17号

第17週(4月19日~4月25日)

発行年月日:平成16年(2004年)4月30日

発行:滋賀県立衛生環境センター内

滋賀県感染症情報センター

電話 077-537-3051 FAX 077-534-3936

1) 全数報告の感染症(1類~5類)

感染症類型	疾患名	報告数 (17週)	累積報告数		平成15年報告数	
			滋賀 (17週)	全国 (17週)	滋賀	全国 ^(*)
1類感染症	報告なし	0	0	0	0	0
2類感染症	細菌性赤痢	0	4	122	7	459
	腸チフス	0	1	12	0	60
	パラチフス	0	0	15	0	38
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	0	0	207	8	2635
4類感染症	E型肝炎 ^(*)2)	1	1	6		
	オウム病	0	0	11	1	44
	ツツガムシ病	0	0	58	2	380
	レジオネラ症	0	0	30	1	143
5類感染症	アメーバ赤痢	0	3	174	3	504
	ウイルス性肝炎	0	1	86	3	634
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	52	3	115
	ジアルジア症	1	1	24	0	99
	後天性免疫不全症候群	1	2	297	8	949
	梅毒	0	2	146	2	493
	破傷風	0	0	16	1	69
	急性脳炎	0	0	^(*)3) 17	0	98

*1:平成15年報告数の全国報告数は、滋賀県で報告された疾患を対象としています。

*2: " 感染症法の改正前のためE型肝炎のみの集計はされていません。

*3:累積報告数・全国(17週)は、報告遅れ分を追加集計したため、前週(16週)より増加しています。

2) 定点把握の対象となる5類感染症

疾患名	定点当たり患者数(県・保健所管内別)								前週との比較(定点当たり患者数)
	県	大津	草津	水口	八日市	彦根	長浜	今津	
インフルエンザ	0.04	0	0	0	0	0.29	0	0	
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
咽頭結膜熱	0.18	0.43	0.50	0	0	0	0	0	
A群溶連菌咽頭炎	0.85	0.29	0.67	0.50	2.40	0.75	0.40	1.50	
感染性胃腸炎	6.12	11.57	12.50	4.50	2.00	2.50	1.20	1.00	
水痘	1.36	1.43	2.17	0.25	1.40	1.75	1.00	1.00	
手足口病	0.06	0	0	0	0	0	0	1.00	
伝染性紅斑	0.12	0.14	0.33	0.25	0	0	0	0	
突発性発疹	0.58	1.14	1.17	0.25	0	0.25	0.40	0	
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	
風疹	0.12	0.29	0.17	0.25	0	0	0	0	
ヘルパンギーナ	0.09	0.14	0	0	0	0	0.40	0	
麻疹	0	0	0	0	0	0	0	0	
流行性耳下腺炎	0.27	0.29	0.17	0	0.20	0.75	0.40	0	
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
流行性角結膜炎	0.14	0	0	0	0	0	1.00	0	
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
無菌性髄膜炎	0.14	0	0	0	0	0	1.00	0	
マイコプラズマ肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
成人麻疹	0	0	0	0	0	0	0	0	

全国集計などの詳細な集計結果は、国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ(<http://idsc.nih.gov.jp/index-j.html>)において公表されています。

0 2 4 6 8 定点当たり患者数

3) 今週のトピックス

滋賀県における風しんの発生状況

定点把握の対象となる5類感染症の発生状況は、先週(4月12日～4月18日)の報告数より少なくなっていますが、咽頭結膜熱、A群溶連菌咽頭炎、水痘および無菌性髄膜炎の発生は先週より増加しています。また、インフルエンザ、感染性胃腸炎、伝染性紅斑、流行性耳下腺炎等の発生は先週より減少しています。風疹については、先週と比較すると変化はみられません。

咽頭結膜熱については、昨年同時期の定点当たり患者数 1.28より少なく 0.18となっていますが、大津および草津保健所管内からの報告があり、今後の発生動向に注意する必要があります。

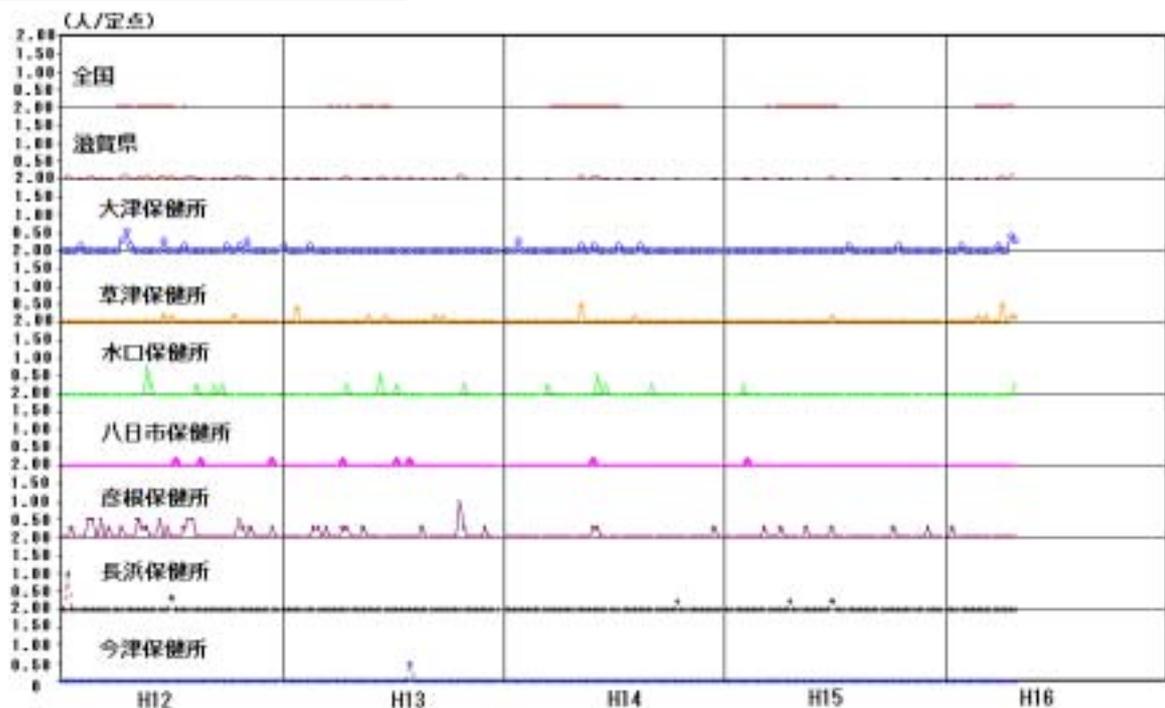
感染性胃腸炎については、先週の定点当たり患者数 7.12より減少し 6.12となっていますが、大津、草津保健所管内では、それぞれ、11.57、12.50と多くなっています。引き続き十分な手洗いをするなどの予防についての注意が必要です。

風しん(三日はしか)については、先週の定点当たり患者数 0.12と比較すると増減はみられませんが、昨年同時期の定点当たり患者数 0.00よりかなり多くなっています。

定点当たり患者数:

感染症発生動向調査事業に係る報告のために、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、一週間を単位として一つの定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります。*疾患により定点数は異なります。

風しんの保健所管内別発生状況(平成12年第1週～平成16年第17週、H12.1.3～H16.4.25)

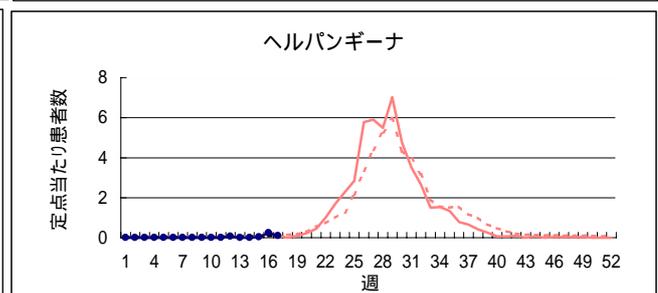
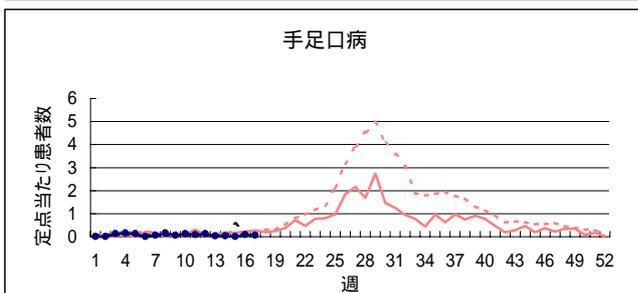
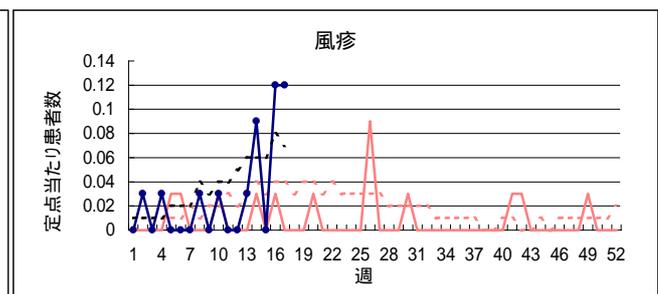
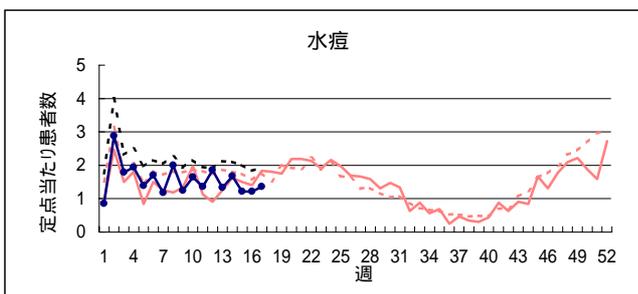
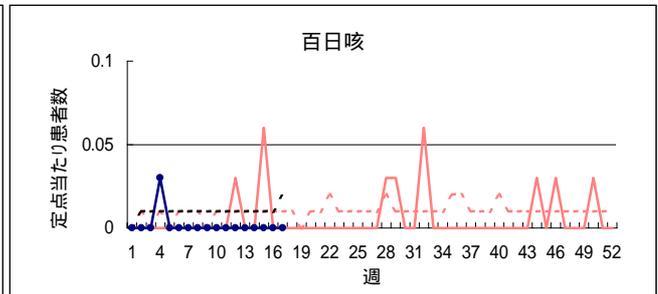
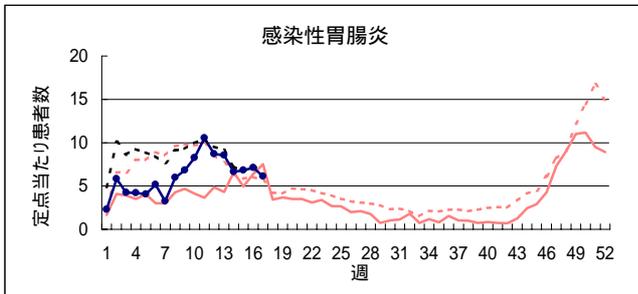
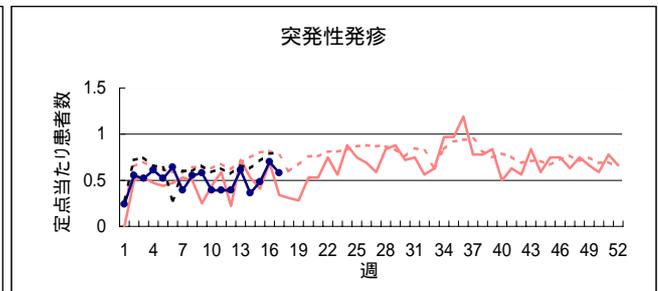
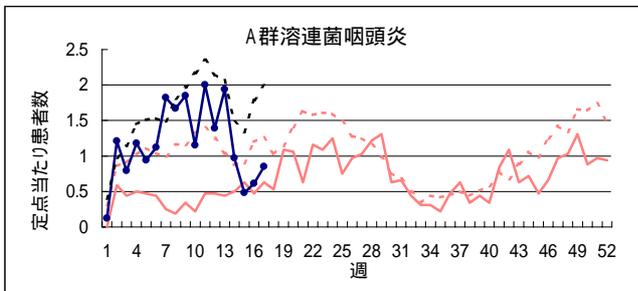
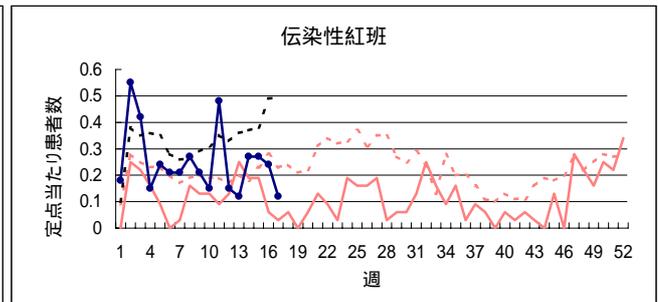
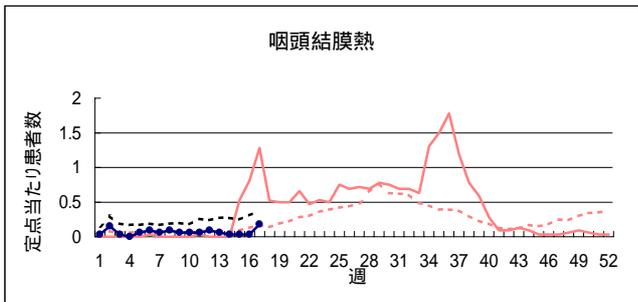
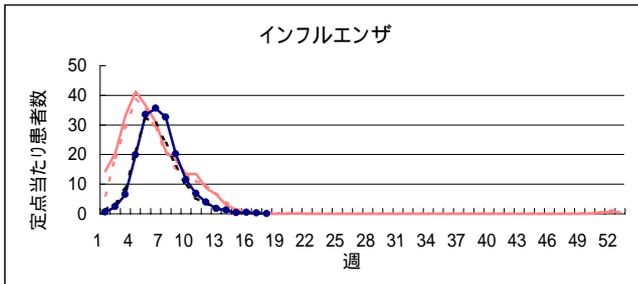


平成12年第1週から平成16年第17週の風しんの発生状況についてみると、全国、滋賀県ともに大きな変化はみられませんが、全国の第16週の発生状況は感染症法施行(平成11年4月)以降の最高値を示し、患者報告数 232名、定点当たり患者数 0.08となっています。

都道府県別では、群馬県、大分県、鹿児島県で多く発生しており、定点当たり患者数はそれぞれ、0.53、0.53、0.37となっています。滋賀県における発生状況についてみると、昨年までは各保健所管内で散発的に発生していましたが、今年の第13週(3月22日～3月28日)以降は、大津および草津保健所管内でほぼ毎週発生しており、定点当たり患者数は0.12となっています。

また、風しんに対する免疫のない女性が妊娠初期に風しんに罹患することにより発生する出生児の先天性風しん症候群(CRS)が、全国で今年になってすでに2例報告されています(平成12～15年は、各年1例ずつ報告がありました)。風しんの流行やCRSの発生を予防するためには、男女ともに、免疫のない場合は風しんワクチンの任意接種を受けることが望まれます。

疾病別定点当たり患者数(平成16年第1週～第17週、H15.12.29～H16.4.25)



疾病別定点当たり患者数(平成16年第1週～第17週、H15.12.29～H16.4.25)

H15 [滋賀 ———— 全国] H16 [滋賀 ●——● 全国]

